

第19回

通常総代会

将来を見据えた事業運営の改革を進め
組合員へのメリット還元の実現をめざす

第19回 あきた白神農業協同組合通常総代会



6月28日に『第19回通常総代会』を、能代市文化会館で開催し、平成28年度事業報告や定款附属書役員選任規程の一部変更、役員を選任など全4議案のほか、付帯決議を協議し、それぞれ原案通り承認されました。

通常総代会には総代500名のうち、実出席237名、書面議決220名、委任状2名の合計459名が出席しました。

はじめに佐藤組合長が「全ての事業が厳しい事業展開を余儀なくされる中で、組合員の皆さまのご理解、ご協力により6,419万円の当期剰余金を計上し、引き続き、出資配当を提案することができた。今年度は、第七次3ヶ年計画の2年度として、計画を確実に実行して行くと共に、厳しい経営環境を直視し、将来を見据えた事業運営の改革を着実に進め、組合員へのメリット還元の実現を目指す」などとあいさつをしました。

その後、永年勤続表彰や来賓祝辞が行われ、藤本信昭さん（藤里地区）を議長に議事が開始し、事業報告及び剰余金処分案の承認など全4議案を含む全ての提出議案が原案通り承認されました。



◎平成28年度決算について

組合員の脱退等により出資金の期末残高は21億8,800万円（前年対比2,630万円減少）となり、自己資本の期末残高は29億7,994万円（同2,471万円増加）となりました。期末の自己資本比率は12.5%（同0.99%減少）となりました。

また、課題となっている不良債権については、債務者への経営指導による延滞解消などに努め、不良債権比率は2.69%（同0.51%減少）となりました。

経営収支においては、貸出金の減少や長期共済新契約高の伸び悩みと保有高の減少および固定資産減損損失の計上（3,350万円）と職員賞与引当金繰入の増加（同143.2%）などありましたが、不良債権の削減による貸倒引当金繰入額の減少、ねぎをは